湖西地区労働者福祉協議会

労福協新聞

静岡県労働者福祉協議会

基本理念

労働者の福祉要求の実現を通じて、
労働者、家族の生活向上と安定をはかり、
真に平和で豊かな暮らしを保障する社会を創る。

運動の原則

①労働者福祉運動は労働運動の一環
②労働者の自発的・自主的な要求・活動
③社会保障拡充、企業内福祉、自主福祉活動の総合的な展開
④地域を活動の拠点とし、組織・未組織を問わず結集
⑤協同組合の理念・原則に基づく協同事業活動

静岡県労働者福祉協議会 中西理事長と意見交換会

湖西地区労福協の皆さん、こんにちは。静岡県労福協の中西です。日頃は湖西地区労福協の皆さんには労働者福祉運動の推進に向けご尽力いただいていることに感謝申し上げます。1月の終わりになりますが、園田会長をはじめ、湖西地区労福協四役と県労福協との意見交換会を実施させていただきました。いろんな角度から貴重なご意見をいただきましたし、皆さんが地区労福協の活動に真剣かつ愚直に取り組んでいることを改めて知る機会となり、私どもにとっても貴重な機会となりました。これからも、地区労福協の皆さんとの情報共有や意識合わせを大切にし、労福協の活動をしっかりと前に進めていきたいと思います。引き続きのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

中西理事長

「労働者福祉」とは

労福協の成り立ちは「生きるため」

Q・戦後から現在までの活動に至る流れを知りたい。

A・生きるため、安価で良いものを買う為に、「物対協」を作り、そこから労福協の歴史が始まった。■第二次世界大戦後、日本人の勤勉性を活かし、労働基準法が作られた。結社の自由、女性参政権、そして自由化の一つとして、労働組合が結成出来る事となった。日本独自の、世界でも稀な企業内組合がここに誕生した。■一度は持ち直した産業も、朝鮮戦争後は不況に陥った。労働者の地位は安定せず、食べる物もない。食べなければ、生きてはいけない。労働者が共同で、安価な物資を買い、分け合う組織「物対協」が発足した。■労働金庫や、こくみん共済、生協も労働者の手によって、労働者の為に作られた協同組合であることも、ぜひ知覚しておきたい。労働金庫は、発足直後は預金も無く、大変苦労した。労働者側も、預けるのは不安だっただろう。理解活動など先輩たちの努力の甲斐があって今がある。こくみん共済も同様で、生保・損保等ネットで安く加入できる時代。

「お金のことなら労働金庫」、「保障のことならこくみん共済」という、運動を続けなければ、じり貧になってしまう。先輩たちが取り組んできた労働運動を忘れてはいけない。

静岡県は、地区労福協が先に発足、県が後に。労働者福祉強化狙い

Q・全国でも稀な発足の仕方と聞きました、それについて経緯等伺いたい。

A・1964年、中央労福協が誕生した。労働組合と協同事業団体が、統一した組織体となる。福祉強化への動きが活発化し、静岡県労福協結成の気運が高まった。静岡県では、28地区の労福協が先んじて結成され、その後に、静岡県労福協が結成した経緯がある。各地区での自主自決の出来る体制を目指し、今日に至る。■労金との繋がりも深く、「利益は地域福祉・労働者の為に」が実践されている。金庫の支店長が労福協の事務局次長を担い、一緒に活動しているのが、静岡県の特徴。■県西部は製造業が多く、労働組合も多い。一方で伊豆半島の様にサービス業中心、民間より官公労の方が圧倒的に多い地域もある。人のばらつき、資金面でも大小ある。県で束ねて資金を回せる仕組みが必要だった。■労金、こくみん共済の利用促進、それによって生活の質的向上・可処分所得の向上、そういった運動に繋げ、ライフサイクルにまで組み込まれていけばいいなと思う。

（紙面下段に掲載の記事は、前理事長の池冨彰氏との意見交換内容を掲載しています。）

フードバンク事業 運動推進の光と影

Q・未だ食べるものに困窮される方がいる中、活動を広げるには。

A・生活困窮者など、行政への生活保護申請が出来ない方、遠慮されてしまう方、そういった方の生活支援の「とっかかり」となるものとして、自負している。■スケールメリットを活かし、一人ひとりの力は小さく、お金もないが、持ち寄れば大きな力になる。ボランティアの方が沢山いるが、最小限の職員や、お金も必要になる。人・物・金の問題は必ずついてくる。最初はハレーションがあり、「物をくれ？」「金をくれ？」と言われたこともある。■フードバンクを積極的に活用してもらうには事業への偏見を無くすことが大事。心構えは、ご近所の助け合いの様な、対等な目線で接すること。「助けてほしい」とすぐに言える様な雰囲気を醸成していくことが大切。■奨学金の返済で困窮する若者も多い。給付型にするための署名活動が、過去に行われた。国会に提出され、法制度確立に繋がった。活動が実を結んだ一つの事例となった。

労福協のHPはこちらから

労福協歴史

【中央労福協】
1949年 中央物対協結成
1950年 福祉対策中央協議会へ改称
1964年 労働者福祉中央協議会へ改称

【静岡県労福協】
1953年 福祉対策協準備会
1957年 労生協へ改称
静岡県労金設立
静岡労済連設立
～県下28地区労福協結成～
1964年 県労福協結成
1969年 志太榛原を皮切りに、地域労福協活動が展開
1985年 労働者福祉運動の拠点として勤労者総合会館（労政会館）が完成
1996年 自然災害に対し静岡県民会議が発足、「被災者生活再建支援法」の成立に繋がる
2006年 多重債務問題撲滅運動を展開
2010年 地域役立資金を創設
2014年 フードバンクふじのくに立上げ
6月、県労福協50周年
2015年 奨学金制度改善に向け304万筆の署名集める
2020年 新型コロナを背景に困窮者支援
2021年 ひとり親家庭への支援取り組みを静岡県母子福祉連合会と連携